

第1分科会 【地域づくりと企業づくり】

逆境を逆手に、新たに人が移り住む地域づくりへの挑戦
～食と農、人をつなぎ、地域に産業をつくる～

報告者
岩手県葛巻町長 鈴木重男 氏 (岩手)

北海道浜中町農協
代表理事組合長 石橋栄紀 氏 (北海道)

座 長
東日本機電開発(株)
取締役会長 水戸谷完爾氏 (岩手)



人口7,500人の岩手町葛巻町、同じく6,800人の北海道浜中町。人口減少、少子高齢化が進む地方の中で両町が今、元気です。

牛が1万頭、酪農を中心とした「ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」葛巻町。さらに最近では光ファイバー網が町内全戸に張り巡らされ、「情報化」の最も進んだ町として全国から注目されています。自然や資源を活かしながら、山村らしい町づくりを推進してきた鈴木町長。交流・定住人口も年々増え続けています。

一方浜中町は海沿いの酪農と漁業が産業の中心ですが、冬期間は気候の厳しさから牧草しか育たず、酪農意外に生きる道はありません。しかしそれを逆手にとった取り組みで、有限会社浜中町就農者研修牧場を創立、全国各地から若い新規就農者が増えています。その中心に立って先導する石橋組合長。

共通する地域の課題をそれぞれの農業への熱き想いで突破してきたお二人の報告から、活力ある地域づくりの活路が見えて来ます。

第2分科会 【経営指針の実践と事業継承】

私の立場はナンバー2のようでナンバー3
～2代目への事業継承を果たして～

報告者
(有)工藤板金工業
専務取締役 市川 恵子氏 (青森)



座 長
(有)いわてにっかコミュニティ企画
代表取締役 吉田ひさ子 氏 (岩手)

(有)工藤板金工業は創業から50周年の昨年3月に市川恵子専務の弟である亮夫氏が2代目社長に就任しました。2人ともに両親が築いてきた会社をいづれ引き継ぐという自覚のもと、背中を見て育ててきました。市川さんは5年前、同友会の経営指針を創る会に参加。身を粉にして働いてきた両親の思い、お客様や社員に対する熱い想いに真っ正面から向き合い、経営を引き継ぐ意志を固めました。

現在は社長とともに専務の立場で経営の最前線に立つ一方、自分の果たす役割と立場を常に考え行動しています。「私の立場は、会長と社長と一緒に経営者の一員として工藤板金工業で自分の使命を果たすこと」女性経営者として揺れながらも覚悟し、後継へバトンリレーしたその体験を存分にお話し戴きます。

【会社概要】 創業；1962年、設立；1968(S53)年、資本金；8百万円、社員数；13名、事業内容；屋根工事・板金工事・建築工事業

第3分科会 【共同求人・社員共育】

どうすれば、社員が生き生きと活躍できる会社になるか
～新卒者の積極採用が生んだ社長と幹部の共育ち～

報告者
住工房森の音・(有)美建工業
代表取締役 桜田 文昭氏 (岩手)
課 長 大平 章広 氏
課 長 山内 さゆり 氏



座 長
(株)八木澤商店 代表取締役 河野 通洋氏 (岩手)

桜田さんが新卒者採用に挑戦し始めたのは、後継者として経営指針を作成した7年前のことでした。「会社を支える5年先、10年先に活躍できる人材は今から育てないと」。この間、幹部社員として会社を支えてきたのが大平さん、山内さんのお二人でした。社長の思いも分かる。でも現場の状況を考えたら、即戦力が欲しい。

3人で何度も何度も話し合い、新卒者の採用を何度も試みましたが、思ったようには人は育たない、ことも実感することになります。しかし何よりも力になったのは、こうした挑戦の歴史の積み重ねでした。

この分科会では幹部社員お二人にも報告に立っていただき、先輩社員として実際にどんな思いで関わってきたのかを本音で語って戴きます。「共に育つ」とは。共にじっくりと考えます。

【会社概要】 創立；1986年 資本金；300万円 社員数；7名
事業内容；建築一式 リフォーム 新築 増改築 企画・設計

第4分科会 【企業間連携、産学官連携で新事業創出】

世界中にたった一つ」の魅力を生んだ連携の力
～5社の持ち味をつないだ絆とは～

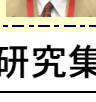
パネラー
石村工業(株) 代表取締役 石村 眞一氏
あすなるホーム 施設長 西條 一恵氏
東日本機電開発(株) 代表取締役 水戸谷 剛氏
木楽創研(株) 代表取締役 熊谷 秀明氏



コーディネーター
(株)高田自動車学校/満福農園(有)
代表取締役 田村 満 氏



コメンテーター 岩手大学地域連携推進センター
准教授 今井 潤 氏



東日本大震災後、新たな企業間連携が進んでいます。沿岸で新しい仕事を生み出さなければ、雇用は生まれません。地域から人が出て行ってしまおう(株)高田自動車学校・(有)満福農園の田村満社長は、県の農研センターが確立したいいちごの高設栽培技術に注目します。地面に接しない高設栽培は今の高田にとって最適。しかも木材を生かした農業ハウスと材木ボイラーを使えば「オール同友会でいける」その一言で始まった新連携。あすなるホームでは、生まれただのいちごで、一個一個手作りのコンフィチュールを商品化し、手に入らないほどの人気になっています。

それぞれの企業の持ち味を生かせば、今までにない新たな発想と新たな仕事、地域内に無数に生まれてくる。そんな可能性を感じさせる報告です。

第13回経営研究集会 参加申込書

お名前：	会社名：
分科会：第1希望 分科会 / 第2希望 分科会	<input type="checkbox"/> 懇親会参加 <input type="checkbox"/> 懇親会不参加 <input type="checkbox"/> 懇親会のみ参加

◆お申し込み先：岩手県中小企業家同友会 FAX 019-626-1644